



学校だより



青梅市立東小中学校
令和3年度 第7号
10月29日(金)

「本気」が心地よい

校長 川窪 公夫

早いもので、今年度も折り返し点を過ぎ、残り5か月となりました。多く子ども達が毎日の授業を大切にしています。特に、中学3年生は、授業中の集中力に優れ、卒業後の進路を勝ち取るために、一生けん命に勉強し、下級生のお手本となっています。とても嬉しく、誇りに思っています。

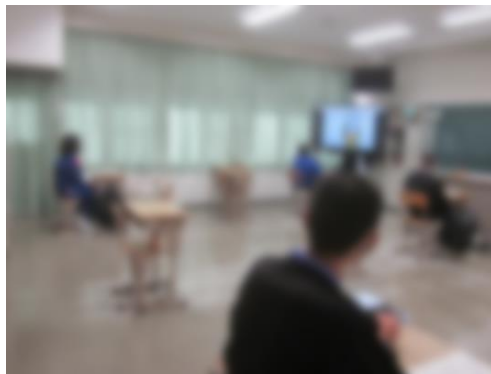
さて、皆さんは、相田みつをさんという詩人を知っていますか。校長室の前の廊下にも相田さんの詩集の日めくりカレンダーが飾られています。今月号では、「本気」という相田さんの詩を紹介したいと思います。ゆっくり読むと誰でも一度は実感として味わったことのある内容だと思います。運動会でのクロスカントリーやクラブ活動で辛い練習を終えた後の爽快感、さらに勉強をやり切ったときの充実感などいずれもさわやかな疲れが残り、何とも言えない心地よさに包まれます。これから行われる行事や勉強にも「本気」で取り組んでほしいと思います。「本気」で取り組むことがたくさんあることは、幸せなことです。その「本気」というエンジンをかけるのは、他ならぬ自分自身です。「本気」の一つひとつがこれからの人生の糧(かて=役立つこと)になります。自分のため、感謝の心を伝えるため「本気」を出していきましょう。「本気」を出せるチャンスを逃さず、充実した学校生活を過ごしましょう。



身を守り、命を守るために・・・避難訓練とセーフティ教室を行いました

<10・19避難訓練>火災を想定し訓練を行いました。火災発生時の避難の呼びかけに始まり、窓を閉め、廊下に整列しグラウンドに誘導して、その後、点呼・整列するまでの一連の流れをすみやかに行うことができました。今回も子ども達は、終始整然と取り組んでくれ、とても立派でした。また、代表生徒が消火器を使って消火訓練に挑戦してくれました。代表として役割を自覚して頑張ってくれました。

<10・20セーフティ教室>今回は、テーマを「インターネットと安全」とし、リスク(危険なこと)と正しい利用の仕方について学習しました。動画を視聴したあと、生活指導主任の相山先生の話放送で聞きました。子ども達の感想には、「困ったことがあったら、周りの大人に相談する。」「軽い気持ちで使ったりせず、しっかりと正しく使いたい。」「自分に悪意がなくてもやってしまったことが実は犯罪というのは怖い。」などが寄せられました。将来の活用が考えられるSNSやインターネット社会を生き抜くためにこれからも正しい知識を身に付けてほしいと願っています。



パラスポーツ 車いすバスケットに挑戦！

10月13日、小学校のオリパラ教育として、車いすバスケットボールで3度パラリンピック日本代表として出場した神保康広さんをお招きして講演会と体験活動を行いました。子ども達は、競技用の車いすの操作(そうさ)を習った後、ルールを教えてもらい、チームに分かれて試合を行いました。初めて車いすに乗る児童も多く、苦労していましたが、それでもパスをつなぎシュートを決めるなど張り切って取り組んでいました。学園・学校の先生方もチームを組み、子ども達の声援を受けながら試合に臨(のぞ)みました。講演会では、講師の神保先生が車いす生活になったいきさつや車いすバスケットに出会うまでの辛い時期のこと、支えてくれた多くの方々への感謝の気持ちを話されました。そして、「知識は人生の宝」であり、興味をもったら「まずは、行動してみることを」を強調されていました。

＜児童の感想＞

- 神保先生の話は、分かりやすかったです。また、会いたいです。(4年生)
- 神保先生が車いすバスケットのルールややり方を教えてくださってゲームもできたので楽しい90分でした。(5年生)
- 人生がうまくいってなくても自分で興味を見つけ、あきらめないでいれば、夢や希望がかなうんだなと思いました。夢に向かってるのが、すごいなと思いました。(6年生)

試合に夢中



感想を聞かれています



SDGs への取組 → 小学校のどんぐり集め

SDGs とは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略で、国連(国際連合の略=世界のほとんどの国が加盟する団体)が2030年までに世界的な環境問題を解決したり、世界から悲しい出来事を減らすために掲げた目標のことです。現在、多くの国がこのSDGsの目標を達成するために協力をしています。日本でも会社や学校が自分たちに出来ることに取り組んでいます。本校でもSDGs教育として、学園にたくさんあるどんぐりを集める活動を通してSDGsの運動に参加しています。集めたどんぐりは、高知県大川村にある「どんぐり銀行」に送ります。「どんぐり銀行」は、落葉広葉樹の森を少しでも増やすために植林活動を推進している団体です。循環型(じゅんかんがた=回りに回って元に戻るしくみ)の豊かな自然を取り戻す活動を通して、SDGsに役立っています。本校では、昨年から、この活動に参加しています。児童たちは、競い合うようにどんぐり集めを楽しみながら、自然の大切さを学んでいます。担当の深沢先生は、「どんぐりはやがて大きな木に成長する。木は山を豊かにし、豊かな山は飲み水を蓄える緑のダムとなる。日本ではほとんど感じることはないが、世界的に見れば安全な飲み水が簡単に手に入る国のほうが圧倒的に少ないのです。地球上で飲み水として使えるのは水全体の0.01%だけです。どんぐりを拾い、山を育てることが水を作ることにつながり、人間を含む動植物を育てることになるのです。この活動を通して、限りある資源を大切に使うことを考えてもらいたいです。」と児童に話しています。これからも身近なところからSDGsの運動に興味をもってもらえるよう取り組んでいきたいです。

どんぐり集め



拾ったどんぐりの重さを測っています。

